

第4学年2組 図画工作科指導案

千葉市立院内小学校

指導者 伊藤 真理恵

展開場所 図工室

授業日 平成26年11月18日(火)

1 題材名 「それ行け たんけんたい」

2 題材について

「たんけん」という言葉には、「探検」「探険」という漢字が使われる。「探検」は、探り、調べると書くように、未知なることを探り調べることが目的である。「探険」という漢字を使うときには、危険を冒すと書く「冒険」の意味が強くなる。これらの意味を踏まえると、これまでに見たことも行ったこともない場所で、そこに潜む危険から身を守りつつ、探り、調べるということが「たんけん」だと言える。

「たんけん」の醍醐味は、新たな発見があることだと考える。初めての地を「たんけん」するときには、その土地の地形を知ることや、そこに生息する動植物と出会うことなど、たくさんの発見があるものである。「たんけん」という言葉には、「どのような発見が待っているのだろう」とわくわくしたり、好奇心をかき立てられたりするような響きがあるように感じる。そこで、子どもたちが「たんけん」してみたい島をつくり、その島を「たんけん」して楽しむことができる造形活動に取り組みせたいと考えた。

本題材は、学習指導要領の第3学年及び4学年の目標「(2)「材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。内容A(ウ)表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」にあたる。

本題材では、「たんけん」してみたい島を想像し、立体に表現する。島の形は、液体粘土や身の回りの材料を使ってつくる。布や果物のネットは、それだけでは思った形に加工しにくいですが、液体粘土との組み合わせによって、自分のイメージに近い形を作ることができる材料である。また、液体粘土は材料を浸したり、材料にかけたりすると、偶然できたしわや思ってもみない形が生まれる魅力的な教材である。できた形から自由にイメージを広げたり、島を「たんけん」する「たんけんたい」に自分を重ねて発想を繰り返したりしながら、立体に表す楽しさを味わうことができるようにしたい。

無人島のイメージを膨らませるためには、子どもたちが無人島の自然や雰囲気に触れる必要があると考える。無人島に対するイメージを広げる手立てとして、写真や絵、映像などの視覚的資料を子どもたちの目に付くところに掲示し、いろいろな島の雰囲気を感じ取ったり、めずらしい植物や地形に着目したりできるようにしたい。また、「グーニーズ」「エルマーのぼうけん」など、舞台が無人島である物語や、主人公が探検する物語を用意し、お話から無人島のイメージを広げさせるとともに、「たんけん」することへの関心を高めさせたい。

無人島に関心をもってきた子どもたちが、自分の無人島をつくるためのイメージを広げるため、単元の初めに「宝の地図」づくりの活動を行う。版画用の和紙をくしゃくしゃにしたり、破ったり、コーヒで染めたりして、古さを出した紙に、イメージする無人島の地図を描く。島の形や地形、島にあるものの絵や記号、その場所に付けた名前などを描いていく中で、自分だけの無人島のイメージを広げられ

るようにする。

製作にあたっては、以下のような手順をとる。はじめに、液体粘土でいろいろな材料を固めて遊ぶ経験をさせる。布や果物のネットに液体粘土をかけたり、浸したり、塗ったりする活動を通して、そのままでは固まらない材料に高さが出ることや、しわやふくらみができることなど、様々な可能性に気付かせたい。また、液体粘土をそのまま使うのと、水で薄めるのとでの感触の違いや、材料の固まり方の違い、絵の具を混ぜて色を付けることなども試させたい。

次に、無人島の制作に入る。台紙となるダンボールの上で、カップやペットボトルなどの芯材と、布やネットなどの材料を組み合わせて楽しむ。いろいろな材料と関わり、組み合わせていく中で、島のイメージを広げさせる。大体の骨組みができたら、芯材を固定し、布などの表面にしたい材料をかけ、液体粘土で固める。液体粘土をかけたり浸したりした後、刷毛や指でなでたり、つまんだりしながら、好きなように島の形をつくっていく。カップなどの他にも、布をふくらませたいときには、新聞紙などを丸めて詰めたり、木の枝や竹串で枠を作って上から布をかけたりできるように、できるだけ豊富な材料を集めておく。

無人島ができたら、並行して「たんけんたい」づくりを行う。ここでは、主に紙粘土を使い、動物や人間などの「たんけんたい」をつくる。その際、何を探している「たんけんたい」なのか、どんな道具を持っているのか、どうやって島へたどり着いたのかなどのイメージを広げられるよう声かけをする。制作中は、島に生息する動植物をつくったり、固まった所を切り開いてみたり、さらに上から材料を重ねてみたり、360度から島を見てみたりと、いろいろな視点で「たんけん」しながら制作する子どもを取り上げ、イメージを広げられるようにしたい。

本学級は男子17名、女子17名の元気なクラスである。休み時間に、校庭の端にある茂みの中を探ったり、大きな石をひっくり返して虫のすみかを見つけたりする「たんけんごっこ」や、大きな葉を集めて「民族ごっこ」をする子どもたちもおり、「たんけん」には興味をもちやすいと考えられる。全体的に図画工作の学習が大好きで、意欲的に取り組んでいる。作品をつくっているときに、どのようにしてつくったのか、何をつくったのかを積極的に話す姿もよく見られる。今回の学習で「宝の地図」を作った際には、島の形を工夫して書いたり、いくつかの島を渡り歩けるように橋や岩を描いたりする子どもが多かった。また、島に隠された暗号や、地図に記された記号の意味を楽しそうに話す姿が多く見られた。このような実態からも、子どもたちが「たんけん」してみたい無人島や「たんけんたい」のイメージを広げながら、形や色、材料などの組み合わせを工夫して、自分だけの無人島をつくれるようにしたい。

鑑賞のときには、友だちの島に自分の「たんけんたい」を持って「たんけん」しに行くことで、表現の仕方や島の特徴について、新たな発見ができるようにしたい。

3 題材の目標

- 無人島やたんけんたいを想像して、立体に表す活動を楽しもうとする。 (関心・意欲・態度)
- 無人島やたんけんたいを想像して、どのような形や色にするか考える。 (発想や構想の能力)
- 布と液体粘土で無人島をつくり、他の材料も組み合わせて工夫して表す。 (創造的な技能)
- 自分や友人の作品を見ながら、表現の面白さや工夫などをとらえる。 (鑑賞の能力)

4 評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
無人島やたんけんたいを想像して、立体に表す活動を楽しもうとしている。	無人島やたんけんたいを想像して、どのような形や色にするか考えている。	布と液体粘土で無人島をつくり、他の材料も組み合わせて工夫して表している。	自分や友人の作品を見ながら、表現の面白さや工夫などをとらえている。

5 指導計画（6時間扱い）

- 無人島がどのような場所か想像しよう（構想）・・・1時間
 - ・無人島という言葉から想像することを挙げ、共有し、無人島が舞台となっている物語や映像などを見る。
 - ・無人島とたんけんたいを作ることを知り、自分の作りたい島をイメージする。
 - ・自分が想像した無人島やその地形、島にいる動植物を、手づくりの島の地図に書く。
 - ・布を液体粘土で固めたものを見て、興味を高める。

- 液体粘土でいろいろなものを固めてみよう（製作）・・・1時間
 - ・液体粘土を触り、その感触や、いろいろな固め方ができるということを知る。
 - ・液体粘土にいろいろな材料を浸し、形を変えたり、芯材を中に入れて固めたりして、イメージを広げる。
 - ・芯になるものや、布の固め方によって、いろいろな形ができることに気付き、できた形から何に見えるかを想像する。

- 無人島をつくろう（製作）・・・3時間（本時2／3）
 - ・ダンボールの土台の上に、集めた材料で無人島の形をつくりながら、無人島のイメージを広げる。
 - ・水で溶いたり色を付けたりした液体粘土で、島をつくる。
 - ・作りたい島をイメージしたり、液体粘土で固めたものからイメージを膨らませたりしながら、島をつくる。
 - ・紙粘土や絵の具、いろいろな材料を使って、たんけんたいをつくる。
 - ・隊長や隊員、たんけんたいの持ち物を考えることで、無人島のイメージを広げる。

- 友だちの無人島をたんけんしよう（鑑賞）・・・1時間
 - ・自分のたんけんたいを連れて、友だちの無人島をたんけんする。
 - ・たんけんカードに発見したことを記入する。

6 仮説について

仮説

子どもたちの無人島に対するイメージを広げ、材料をいろいろな形に固めたり組み合わせたりする機会を設けることで、材料の色や形を生かし、自分の思いを表現することができるだろう。

これまで、子どもたちは無人島が舞台になっている物語に触れたり、「無人島」や「たんけん」という言葉からイメージすることを交流したりする中で、無人島に対するイメージを広げてきた。前時までには、いろいろな材料を組み合わせ、無人島の形をつくる活動を行っている。本時では、いよいよ材料を液体粘土で固め、変形させながら、自分だけの無人島づくりに取り組む。

しかし、そのまま活動に入ると、これまで思い浮かべてきた無人島のイメージをどう表現すればよいのかわからず、手が止まってしまう子どもがいることも考えられる。そこで以下のような手立てをとる。

(1) 自分のイメージを広げるための手立て

① 無人島に対するイメージ

これまでの学習の中で、子どもたちは無人島には様々な地形があったり、動植物が生息していたりといったイメージを交流してきた。本時ではそのイメージマップや、自分が描いた「宝の地図」を掲示しておくことで、これまで思い描いてきたイメージを表現できるようにしたい。

② 材料から広げるイメージ

前時までには子どもたちは、いろいろな材料を液体粘土で固める活動を行っている。様々な材料の中から、おもしろい形や使いたい材料を選び、無人島をつくることで、一人一人の思いが表れた島々ができるのではないかと考える。また、材料を組み合わせたり、重ねたり、ぶら下げてみたりといろいろと試してみる中で、さらに新たな形が生まれてくるのではないかと考える。

(2) 自分のイメージを表現するための手立て

① 液体粘土を自由に使える環境づくり

子どもたちが、液体粘土を好きな濃さに薄めたり、着色したりできるように、液体粘土の入ったボトルと混ぜるための容器を用意する。容器は、色や濃さを変える場合に、新しい容器を使えるよう、大小の容器を用意しておく。布などを浸したい場合には、バットなどを使えるよう、用意しておく。また、液体粘土を材料につける方法として、手でつけるだけでなく、刷毛や筆も用意しておく。

② 材料コーナー

材料は、基本的に使いたいものを自分で探して用意することとする。集めたものは、一人一箱用意した材料箱に入れ、机の下に置いておく。ただし、子どもたちが用意したもの以外にも、様々な材料を豊富に用意しておくことで、より自分のイメージを表現できるようにしたい。本時は、島の骨組みができたところに液体粘土をかけたり、新たな材料を加えて組み合わせたりするため、材料を素材ごとにまとめて設置しておき、使いたいものを自由に使えるようにする。

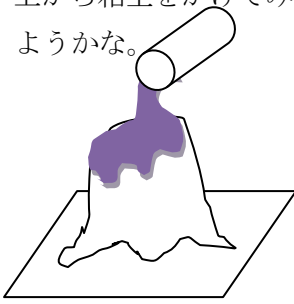
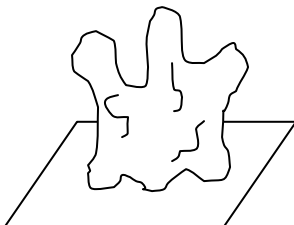
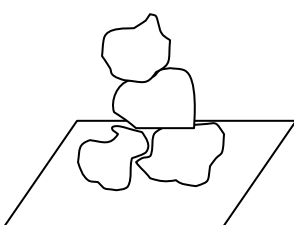
6 本時の指導

(1) 目標

- 材料の形や色、組み合わせを工夫して、自分だけの無人島をつくることができる。

(創造的な技能)

(2) 展開 (4/6)

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価の観点 (◆)	材料・資料
<p>1. 前時までの活動を振り返り、本時の活動を確認する。</p>	<p>○ 前時までに、集めた材料でつくった無人島を、液体粘土を使って、自分だけの無人島に変身させることを伝える。</p>	
<p>材料と液体粘土を組み合わせ、自分だけの無人島に変身させよう</p>		
<p>2. 材料を加えたり、液体粘土を使ったりして、無人島を作る。</p> <p>・ 上から粘土をかけてみようかな。</p>  <p>・ 引っ張ってでこぼこさせてみよう。</p>  <p>・ 絵の具を混ぜて岩山の感じを出そう。</p>  <p>・ 水が流れる感じをつくってみよう。</p> <p>・ 島と島をつなげる橋を</p>	<p>○ 宝の地図や、液体粘土で固めた材料などから思い浮かぶ島の様子を自由に表現するように声をかける。</p> <p>液体粘土</p> <p>○ 液体粘土のボトルを一人一本用意し、それぞれの机で薄めたり着色したりできるようにする。足りなくなった場合は、予備の液体粘土が入った箱から、容器に液体粘土を取って持っていくようにする。</p> <p>○ 液体粘土でいろいろなものを固めたときに、子どもたちが気付いたことや、固め方の工夫を思い出せるように、まとめたものを掲示しておく。</p> <p>材料コーナー</p> <p>○ 材料を素材ごとにまとめて設置しておき、自由に使えるようにする。</p> <p>○ 手の止まっている子どもには、つくっている部分のイメージを聞きながら共感し、励ましたり、宝の地図を描いたときにイメージしたことを思い出させるような声かけをしたりする。</p> <p>○ 芯になるものを工夫し、ダイナミックな地形になっている子どもや、島に生息している動植物を表現している子どもを取り上げ、称賛する。</p> <p>◆ 材料の形や色、組み合わせを工夫して、自分だけの</p>	<p>【材料】 液体粘土、布類、材料、ダンボール、麻ひも、スズランテープ、綿、木片など</p> <p>【道具】 刷毛、お椀、バット、ボンドなど</p> <p>【資料】 無人島のイメージマップの掲示、子どもたちがつくった宝の地図の掲示、液体粘土の使い方の掲示 など</p>

<p>かけてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴を開けて洞窟をつくらう。 <p>3. 班の友だちと、無人島を見せ合い、素敵 なところや、たんけんしてみたくなっ たところを紹介す る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの島が橋でつなが っているところがいいね。 ・大きな山の裏側にほら 穴があって、たんけん してみたくなったよ。 <p>4. 本時のまとめをす る。</p>	<p>無人島をつくること ができる。 (創造的な技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班の中でお互いのいいところを見つ け合うことで、次時への意欲につな げる。 ○ 材料の特徴を生かして島をつくっている 子どもや、いろいろな材料を組み合わせ て表現できている子 どもを取り上げ、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 次回は自分だけの無人島を完成させ ること、たんけんたいをつくって友だ ちの島へたんけんに行くことを伝え る。 	
--	--	--

(3) 材料・用具

【教師】ダンボール、液体粘土、紙粘土、ボンド、刷毛、バット、お椀、材料 など

【児童】ぬれタオル (手拭き用) お道具箱 (使いかけの材料などをしまう) 布、材料、木の枝や実、はさみ、絵の具 筆 汚れてもいい服 など

【子どもの机上 (4人班)】

